

「桐蔭横浜大学の開き直り」と批評する前に、今日の高等教育施策における教学マネジメント体制をしっかり勉強してくれませんか！

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
＊詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

あるウェブ記事より

もはや大学入学者の半分が「推薦」という衝撃…大学入試は「12月で終わるもの」になった

神奈川県にある桐蔭横浜大学の「開き直り」っぴりが、大学関係者の間で話題を呼んでいる。

「昨年4月に同大に入学した学生は570人ですが、そのうち一般選抜で合格したのはわずか33人、割合にして約5.8%でした。2024年度の入試では一般選抜の割合を0%にして、全入学者を学力試験以外の方法で選抜するのが目標のようです」

実は、今年度に大学に入学した全国の受験生約61万人のうち一般選抜、すなわち学力試験をパスして入ったのは半分以下。約51%にあたる31万人が、「学校推薦型選抜」と「総合型選抜」によって入学しているのだ。・・・（続く）

2025年2月5日

桐蔭横浜大学はAPに基づく高校からの「接続教育」を目指す

①三つの方針（ポリシー）

- DP（ディプロマ・ポリシー）
- CP（カリキュラム・ポリシー）
- AP（アドミッションポリシー）

→教学マネジメント体制（2008年～）

②学力の拡張を真正面から捉える（学士力, 2008）

- 知識・理解
- 汎用的技能
- 態度・志向性
- 総合的な学習経験と創造的思考力



【学部・研究科と在籍学生数】

法学部、医用工学部、スポーツ科学部、現代教養学環
3研究科

【大学のミッション】

- ・ 分厚い中間層の学生の学びと成長に全力を尽くす
- ・ 地域のWellbeingに寄与する

【大学の特徴】

- ・ 専門教育タコつぼ化しない学部横断的な学びで実践的力を育成
- ・ 入学後、さまざまな経験を通してやりたいことを見つけ、自らのキャリア意識を築く育成型
- ・ 地域をエリアキャンパスとして見立て、フィールドワーク中心の実践と理論の往還的学習

▶ ユニバーシティ・ポリシー

桐蔭横浜大学は、すべての学位プログラムにおいて、深い教養と倫理観を礎とした専門的知識・技能を有し、主体的に社会と関わり、その中で「人生と学びの基盤となる力」を発揮することで、社会の持続可能な発展に貢献し新たな価値を生み出すことができる人材を育成します。



GP事業から教学マネジメント体制へ

- 2003年 特色ある大学教育支援プログラム（通称「特色GP」
Good Practice
※現代GP、教育GPとして発展
- 2005年 中教審『将来像答申』（2005年）

- 2008年 中教審『学士課程答申』（2008年）
※3つのポリシー（DP・AP・CP）に基づく教学経営
- 2012年 中教審『質的転換答申』（2012年）
※教学経営 → 教学マネジメント
- 2017年 3つのポリシーの策定・講評の義務化（学校教育法施行規則改正）
- 2018年 中教審『グランドデザイン答申』（2018年）
※3つのポリシー → 3つの方針
※『教学マネジメント指針』（2020年）

(主催)溝上研究室・リアセックキャリア総合研究所

第3回教学マネジメント実践事例セミナー

(予習動画)

(2022年11月4日)

11/4セミナーでより良く学ぶための基礎知識
教学マネジメント・学習パラダイム・リカレント教育(リスクリング)

溝上慎一(桐蔭学園理事長・桐蔭横浜大学教授)



TOIN 6を身につける3つのACTION

カリキュラム
(授業)

CANDLEプログラム
(準正課)

クラブ・サークル
(正課外)



授業やゼミでは学べない
「リアルな現場」で学ぶ



入学前教育

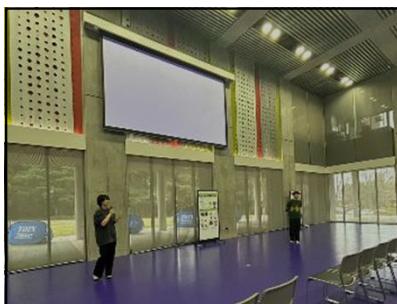
CANDLEプログラム (準正課)



地域貢献



学園祭



アスリート応援部



インナーブランディング

ToIn ラムネプレゼント企画を実施しました！



2022.10.27
一足早いハロウィン
イベントしました！



学修支援



●サークルみたいにみんなで交流もします！

桐蔭横浜大学アスレティックデパートメント

TOIN 6を身につけるACTIONの1つである正課外活動をマネジメントする「桐蔭横浜大学アスレティックデパートメント」を発足し、部活動を本学の教育の一環に位置づけ、部活動も大学授業も双方に真摯に取り組む文部両道プログラムを推進しています。また地域に根強く大学として、スポーツや健康に関するイベント等を通じて、地域住民のWellbeingを高めていくことで、地域に愛され、地域から応援される大学発地域一体型の組織を目指します。

学生が伸びる3つの環境

部活動

競技力の向上はもちろん、学生同士、学生と指導者間の切磋琢磨を通してTOIN 6を身に付けます。



授業

アスリート・イン・ソサエティは、社会とスポーツのあり方を深く考えることを通じて、人間として、社会人として成長することを狙いとしています。



社会貢献

大学スポーツは地域を含めた様々なコミュニティから支援を受けて活動しています。支援されるだけでなく、地域への貢献により、支えあう関係を目指します。



トップスポーツ最前線から学ぶスポーツビジネス戦略

アスリート・イン・ソサエティでは、特別講師を招聘し、卒業後もアスリートとして、またはスポーツに関わる様々な社会で活躍できるような授業を展開

特別講師：日本テレビGHI執行役員 岡部氏、WOWOW会長 田中氏、元リーグチェアマン 村井氏 (ほか)





ノート作りの授業・文部両道セミナー



2024 NO.1
1/16初回授業 言葉のスタイルを探り、て
「アーティスト」と「ライバーアーティスト」の関係
をアーティスト側とライバーアーティスト側の立場
から見直す。対応に「シナリオアート」とは自分自身に
自分自身に自分を置いていくこと
を指す。自分自身に自分自身に置いていくことを
自分自身を育てる。ここでは、アーティストとライバーアーティストは
対比の関係であることを学びました。

13(金) 集中力の大切さと睡眠時間の確保
最近毎日のことを見ると、フレッシャーと緊張で
気がねないことが多い。睡眠は毎日の集中力として強く
関係している。例えば、今日の練習問題合、パトロールもアレでし
た。何よりも、集中力がなければ、問題を解くことはでき
ない。集中力は睡眠を取ることによって、十分な睡眠が必要だと感じた。

4(2) 対戦相手校の動画研究
メンタル面
神面は対戦していないからなし
右の気持ちが上だと勝率は下がる
自年のスピード、徹底度、意図の読みを組合めて見
自年のスピード、強さについてのへの見極め
自身相手は何を見る。

19/9/7 19/12特別12日
1月1日より長の通し
私には高橋3年の年付付き。713人が、30歳の人と10月19日2
年半にして、1月一緒にいきながやく前20日3月1日
同月も一緒にいきながやく前20日3月1日
記念日は普段は感謝の歌を歌い、二曲か三曲よく歌い大切に
日々歌い続いた。

19/20(日) 日頃の疲れ
（本日このところ）
部活動が忙しくて、そして普段から中止休止などしている
ないがここに負けた本音をもつて他の学校はみんな
もやもやしているのを今度はもとより負けた格好をしてしまった
難しいもつもつ感覚が手元にこもる感じであります。

10/21(月) 体調

「Aが面白い」といっても、Bが面白いとは限らない。つまり、Aが面白いとBが面白いとは、必ずしも関係ない。しかし、Aが面白いとBが面白いと、必ずしも関係がある。つまり、Aが面白いとBが面白いと、必ずしも関係がある。

1933(10) 食介道
二ノ宮のスキー場
今日は雪場の中から斜面が雪で滑り難い状況で、改めて
人間に滑り難い状況を3つほど見つけ出し、そのうち2つは
滑り難い状況が同じで、もう一つは、雪の塊

1/24(木) 同期
今期も前回と似た構成で、もう1度は同じく同期で、時間も同じで、
大学生が就職活動で忙しくて、時間の限った方、普段なかなか

105(金) 週末終わり
平日の最後
私はまだ夏履きが好きです。便りも休むことを
今日は土日の前日がうれしい。二日も霁りそう、秋人はうれしく
思えるが、二曜日はまだ秋深く、毎日にも秋を感じます。



【学部・研究科と在籍学生数】

法学部、医用工学部、スポーツ科学部、現代教養学環
3研究科

【大学のミッション】

- ・ 分厚い中間層の学生の学びと成長に全力を尽くす
- ・ 地域のWellbeingに寄与する

【大学の特徴】

- ・ 専門教育タコつぼ化しない学部横断的な学びで実践的力を育成
- ・ 入学後、さまざまな経験を通してやりたいことを見つけ、自らのキャリア意識を築く育成型
- ・ 地域をエリアキャンパスとして見立て、フィールドワーク中心の実践と理論の往還的学習

▶ ユニバーシティ・ポリシー

桐蔭横浜大学は、すべての学位プログラムにおいて、深い教養と倫理観を礎とした専門的知識・技能を有し、主体的に社会と関わり、その中で「人生と学びの基盤となる力」を発揮することで、社会の持続可能な発展に貢献し新たな価値を生み出すことができる人材を育成します。



ご視聴有難うございました
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてくださると、回答の助けになります。

なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等